

こころ医療福祉専門学校佐世保校
令和5年度学校関係者評価委員会議事録

1 日時 令和5年9月10日（日）11:00～12:00

2 場所 こころ医療福祉専門学校佐世保校 5階 503

3 委員 出席：高橋 賢一郎（長崎県柔道整復師会佐世保支部）
上田 陽介（純心整骨院）
中野 仁、久野貴史、池田智恵

（敬称略）

4 開会のことば（司会 中野）

本会の開会目的及び配付資料の確認を行う。

5 令和4年度学校自己評価結果報告（本館校長 中野）一別添資料による
評価項目の達成及び取組状況

（1）教育理念・目標

周知活動はコロナ禍で課題が残ったとしているが、ほぼ適切。

周知活動以外の理念・人材育成・ニーズに応じる経営等は適切。

（2）学校運営

報・連・相の徹底を課題として、各部署における会議で検討し、建設的な議論を重ね改善に努めるとしているが、ほぼ適切。

会議をまんべんなく実施した上で、偏りがない運営を目指す。

（3）教育活動

コロナの感染拡大によって中止等なった結果、研修に関する項目でやや不適切となっている。

非常勤講師と意見交換を行い学生満足度の要素である有意義な授業の充実が課題。

（4）学修成果

進学率・就職率・資格取得率の向上が図られているかの評価にはほぼ適切。

コロナ禍の影響により卒業後の相互連携の面ではやや不適切となった。卒業時の就職率は56%だが、卒業後は100%となっており、国家試験受験数10名の内10名合格となってこちらも100%となっている。

一方で21名在学していたので国家試験受験を約半数しかしておらず、退学率が24%と高いのが今後の課題である。

(5) 学生支援

支援体制の評価は適切、ほぼ適切となったが、コロナ禍の影響により課外活動による支援体制、卒業生への支援体制はやや不適切となった。

コロナ禍の影響によりスポーツ大会など中止になっていた。トレーナー活動を増やし課外活動での参加や意欲向上を図る。

長崎は卒業後2か月に1回学校に来てもらい勉強会を実施されている。佐世保は行われていないため課題。

留学生は前年度73名で入国も可能になり現在、95名となった。全学生に対して生活支援、アルバイト紹介等実施している。

(6) 教育環境

ほぼ適切となったが、施設が古いため令和4年度に入って確実にメンテナンスを進めている。メンテナンスを考え定期点検を実施していきたい。

(7) 学生の受入れ募集

すべての項目で適切。少子化や大学進学が進行し入学者数が減少しているのが課題。新卒者・社会人に効果の期待できる広域的な広報活動を展開していく。

今年度はオープンキャンパスの来校数、受験申込、どちらも昨年度より増えている。

(8) 財務

適切、ほぼ適切の評価となっている。

高等教育無償化の広がりで高校新卒者の減少となっている中、効果的な広報活動を行い、付帯教育の強化等、新しい事業展開を検討する。

(9) 法令等の遵守

適切となっている。

日本語科は入国管理局から適正校の通知を受け定員増員を決定している。

(10) 社会貢献・地域貢献

やや不適切となっている学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献についてはコロナ禍の影響から十分な対応ができなかったため、今後再開していきたい。

学生のボランティア活動についても要請が増えてきているので、積極的に

参加できる体制を作っている。

6 令和4年度学校自己評価結果に係る委員の評価

特に問題なし・・・○

付帯意見あり・・・△

NO	点検項目	学校関係者評価
1	教育理念・目的・育成人材像	○
2	学校運営	○
3	教育活動	○
4	教育成果	△
5	学生支援	○
6	教育環境	○
7	学生の募集と受け入れ	○
8	財務	○
9	法令等の順守	○
10	社会貢献	○

7 委員意見

(上田) 退学者は、一年生が多いのか。

(中野) 新卒で辞めるのが多いのは一年生。進路変更や学力の問題、不安。

(上田) そのような場合は、三者面談等をしているのか。

(中野) 三者面談をしている。

(上田) どのように対応しているのか。

(中野) 原因、改善できるところが個々それぞれ違うので、まず学生との面談をし、その上で保護者に来てもらい家庭での状況を聞き、どうやったら続けられるのかということ的前提に話をしている。

(上田) そこで変わるのか。

(中野) それで続く場合もあるが、三者面談までなってくると厳しい。休学して時間を置いて復学ということもある。

(上田) 退学者を減らしたい。

(中野) はい。減らすことが最大の課題。目的、目標が定まらないまま勧められるままに入ってきた学生が退学に繋がっているケースが多い。

(上田) 面接基準を高くすることはないのか。

(中野) 面接の際は自己評価や自己PRが入るが、スポーツ経験者が多いので怪我をして整骨院の先生にお世話になってという自己体験から進路として意識したというのが多い。結果は授業についていけないとか蓋を開けてみたら思うと

ころとギャップがあったということなので、今後対策として入学前から2・3回来校してもらって授業や実技の体験をさせてどうして大事なのか、関連付けて理解させるということをしていく。

(上田) 知ってから入ると違うので必要と思う。

(高橋) 自己評価の中でやや不適切となっている項目があるが、コロナ禍という中でこの評価というのがあるので今後は改善されて教育活動が出来ていくのだろうと思っている。

(中野) はい。

8 閉会のことば (校長 中野 仁)

今回、評価報告書に挙げた内容以外にも何かお気づきの点があったらご教授ください。ありがとうございました。